

# クイズに答えて素敵な商品をGET

**Q** 夏の風物詩・風鈴は中国から日本に渡ってきたと言われています。さて、何年前に日本にやってきたでしょうか。  
※松ぼっくりをよ〜く読んでみてくださいね！

- ① 10年以上前
- ② 100年以上前
- ③ 1000年以上前

**応募方法** 同封のハガキ解答欄に回答をご記入の上、御返信下さい。

① 天然真鯛の鯛茶漬け 4食セット

2名



② 鯛茶漬け(胡麻だれ) 110g×2本

3名



③ 天然真鯛の鯛茶漬け 1食(胡麻だれ)

5名



今回の商品は  
こちら

福岡鮮魚市場  
No.1 仰卸  
アキラ水産さんの  
鯛茶漬け  
です

**応募期間** 2023年10月31日(火)(消印有効)まで

**当選発表** 賞品の発送をもって当選とさせていただきます。

皆様のご応募  
お待ちしております

## 前号 第37号クイズご当選者

### ① どこでも明太子・赤ごまセット

福岡市早良区 久 芳様  
福岡市早良区 母 里様

### ② めんツナかんかん食べ比べ3缶セット

福岡市東区 今 任様  
福岡市東区 村 瀬様  
東京都府中市 西 川様

### ③ からかもん・うまかもんセット

福岡市東区 梅 本様  
福岡市東区 武 内様  
福岡市東区 宮 崎様  
福岡市西区 中 島様  
埼玉県桶川市 白 木様

## 社員紹介



しげまつ よしみ  
**重松 芳規**

**生年月日**  
1995年5月1日

**血液型**  
AB型

**マイブーム**  
陶芸、食べ歩き



入社3年目の重松です。神社やお寺の現場、石の加工等、日々貴重な経験をさせていただいております。作業現場でお客様から「頑張ってるね」と声をかけて頂けるのがすごく嬉しく、励みになっています。お休みの日は、美味しいものを食べて力を蓄えています。お客様のご要望をしっかりと実現することのできる職人になりたいと思います。宜しくお願い致します。

## 編集後記

今年の6月に國松石材のホームページをリニューアルし、スマートフォンでも見やすく、わかりやすいデザインとなりました。今後、コラムや福岡の寺社霊園紹介なども掲載予定ですので是非ご覧ください！

<https://www.kunimatu.com>



(堺 直美)

# 松ぼっくり

- 1 季節の小話
- 2 お墓の相談室「お線香の豆知識」
- 3 第38回 町名散歩「<sup>じぎょう</sup>地行」
- 4 國松さん、今なんしようと？  
「櫛田神社・櫛田会館解体修復工事」  
博多総鎮守 櫛田神社の櫛田会館の足元を作っています
- 5 「高場乱先生銅像台座製作協力・玄洋社墓地整備」  
福岡博多の新しい歴史的財産の工事に携わりました
- 6 お客様からの声
- 7 お墓のなるほど講座
- 8 お墓参りっていいね！「お墓参り」の感動的なエピソード  
第13回 小説家・僧侶 瀬戸内寂聴さん
- 9 クイズに答えて素敵な商品をGET！



## 季節の小話 風鈴

最近では夏の風物詩となった風鈴。各地で風鈴を飾ったイベントが行われています。

風鈴の奏でる音には、癒し効果があります。

自然風のリズムは、脳波をアルファ波に導いてリラックス効果をもたらすため、1/fゆらぎ(エフぶんいちゆらぎ)と言われており、科学的にも確立されています。だから、風鈴の音を聞くと「癒されるなあ、涼しい気がするなあ」なんて感じるのでしょうか。ちなみに、風鈴は遥か1000年以上も昔に中国から渡ってきました。当時は「占風鐸(せんふうたく)」という占いがあり、魔除け・邪気払いとしてお寺の軒先に吊るされるようになったのです。神社でもお払いの時に、神主さんは鈴を使いますよね。なので、こうして鈴の音には魔除け・邪気払いの効果があるとされているんです！

全国に風鈴作り体験が出来るガラス工房がありますので皆様チャレンジしてみたいかがでしょうか。



ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

## 國松石材株式会社

平尾店／福岡市中央区平和3丁目12-27(平尾霊園下)  
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189

工場／糟屋郡篠栗町大字高田字中坪324-1  
TEL 092-410-1483 FAX 092-410-1987

<https://www.kunimatu.com> 国松石材 検索



「お線香の豆知識」

何の意味があるの？種類って？選び方は？供え方は？

お線香って何故使うの？どんな意味があるの？いつから使われているの？など普段何気なく使っているが、分かって使っているのと、分からないで使っているのでは、仏様に手を合わせる気持ちも大きく変わってくると思いませんか。今回は「お線香の豆知識」として、お線香についてお話しをしたいと思います。

●お線香の功德

線香は、仏さまへの大事な供養物です。その香りは、仏さまにとどくだけでなく、線香をたく本人はもとより、周囲のだれ彼の区別なくゆきわたる徳をもっています。

それは、仏さまの大慈悲心と同じように四方に無限に広がり、私たちに深いよろこびと信心のころをおこさせます。そして線香は、一度火をとともすと燃えつきるまで芳香を放ち続けることから、命あるかぎりの仏さまへの信仰と、自らが物事を行うとき努力し続けることをあらわしているのです。また、線香は良い香りを放って、時と所の不浄をすべて清める徳をもっています。ですから身体や心の汚れをはらい、清浄な心で仏さまにお参りするために線香をたくのです。

仏事や葬儀においての焼香は、お仏前を美しく清らかに飾りさせていただくとともに、敬虔(けいけん)な心をささげる儀式なのです。

●線香の種類

線香は、主な原料によって「杉線香」と「匂い線香」の二種類があります。

【杉線香】杉の葉の粉末を原料に製造されます。杉特有の香りのする煙の多い線香で、主にお墓用線香として使われます。

【匂い線香】穂の木の樹皮の粉末を主原料に、各種の香木や香料を加えて製造されます。現在広く家庭や寺院で使われている線香です。外箱の体裁で、進物用線香と家庭用線香に分けられます。長さの種類はいろいろあり、14センチの短寸、16センチの中寸、25センチの長寸、33センチの大薫香、54センチの中天香、66センチの大天香などがあります。

●線香の選び方

香りは、人それぞれ好みがありますので、自分の好みに合った香りの線香を選びましょう。どの線香を選んだらよいか迷っている方は、お店のスタッフにお勧めのお線香を聞いて試してみるもの良いと思います。最近では、住宅事情からか煙の少ない線香も人気があります。

●線香の供え方

まずローソクに火を点し、次に線香をローソクの火で点火し、香炉に立てます。

線香の火は、口で吹き消すのではなく、手であおいで消すようにします。人間の口は、とかく悪業を積みやすく、けがれやすいものなので、仏に供えた火を消すには向かないからです。ローソクの火を消す場合も同じです。お供えする線香の本数は、一般的には1~2本ですが、正式には各宗派で異なります。浄土宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗は1本で、天台宗と真言宗は3本です。香炉に立てるときは、まとめないで1本ずつたてます。真宗大谷派と浄土真宗本願寺派は、線香を立てません。線香を適当な長さに折って火をつけ、香炉に横に寝かせます。

※地域や各寺院によって供え方が違う場合があります。

線香による焼香



ご遺族、僧侶に一礼した後、遺影に向けて一礼します。

線香は右手で持ち、火を付けます。

火が付いたら左手であおぐか、線香を軽く振って消します。(息は吹きかけないようにしましょう)

1本ずつ香炉に立て、合掌します。

第38回 町名散歩

じぎょう 地行

地行

明治通りを大濠公園から西新方面に向かうと、北側に位置する町が「地行」<sup>じぎょう</sup>です。PayPayドームやマークイズ福岡ももちなど、大規模なイベント・商業施設が集まる地行浜とは対照的に、閑静な住宅地が広がる地行の町にはどんな歴史があるのでしょうか。

江戸時代の儒学者・貝原益軒著「筑前国続風土記」によると、地行は「荒戸の西より百道原の末、早良川の遠干瀧の際迄、(中略)松林なくして不毛の地」と書かれています。関ヶ原の戦いの後、筑前国を与えられた黒田長政は防潮のため、町人たちに松を植えさせこの一帯を松林にしました。その後、二代目黒

田藩主・黒田忠之の時代に松林から足軽が住むための屋敷町とするため、新たに土地を開拓し住宅を造成する意味を持つ「地形」と名付けられ、いつしか現在の「地行」に変わったとされています。

明治時代には「地行東町」(現在の地行1、4丁目)と「地行西町」(地行2、3丁目)に再編されました。大正時代には明治通りに福博電車が通り、地行周辺は貸邸宅として再開発。福岡県立図書館に残る「福博電車沿線名所案内図」にも地行東町駅、地行西町駅や貸邸宅のイラストが記されています。

地行には日本が誇る国宝に関わる名所があります。江戸時代中期、志賀島で耕作中に発見された純金製の小さな王印「金印」。これを鑑定したのが福岡藩の儒学者・亀井南冥<sup>かめい なんめい</sup>です。出土した金印は中国の歴史書「後漢書」に記された、光武帝が倭国に与えた金印であると「金印弁」を執筆。他の学者は他説を主張したが、南冥を超える説はなく全国的に「金印弁」が一般化されました。謎の多い金印はその後も研究が行われ、歴史的文化的価値から昭和29年に国宝に指定されました。

地行にある浄土真宗本願寺派のお寺・浄満寺には亀井南冥と亀井家一族の墓所があります。医学・儒学など広く学問を修めた南冥は寿陵<sup>じゅりょう</sup>(生前にお墓を建立すること)し、長寿と一族の繁栄の願いを込めたお墓に現在も手を合わせるができます。

南冥と息子の昭陽<sup>しょうよう</sup>が開いた亀井塾は身分や男女の隔てなく開かれ、福岡九州各地から弟子が訪れました。その中には弊社が銅像設置に関わった「幕末の博多の女傑」高場乱も亀井塾で学びました。

地行から明治通りを挟んで向かいには、後に高場乱が開いた通称「人参畑塾」で学んだ政治家・中野正剛の銅像と鳥飼八幡宮が鎮座しています。205年ぶりに遷宮を行った鳥飼八幡宮の新しい本殿と拜殿には、弊社も施工に関わらせていただきました。地行周辺を散策の際には是非ご参拝ください。



亀井一族の墓



浄満寺



博多総鎮守 櫛田神社の櫛田会館の足元を作っています。  
**櫛田神社・櫛田会館解体修復工事**

令和7年に25年に1度の式年遷宮を迎えます。第四十九回目の事業の一つとして行われていた「櫛田会館」の解体修復工事が6月に完了しました。

弊社は「櫛田会館」の元になる礎石の加工および設置、敷石や縁石の加工および設置工事に携わらせて頂きました。工事自体は令和3年4月の旧会館の解体工事より作業をさせて頂いており、旧会館に使用されていた石材の解体引き取り作業や周辺石材の移設作業を行いました。



解体前状況



引取り加工、設置状況  
 ※解体時に出てきた既存礎石を台形に切り研磨を施し再利用しております。

生かし取った石材を、新しく建つ「櫛田会館」の足元となる礎石に再加工し、周囲に配置されていた縁石は板状に切削し、犬走りの敷石に加工を行いました。また比較的均一な加工が施していた縁石は新しい会館の景観にマッチするようにクリーニングを行い、敷石と干渉する場所は切削を行い目地が通るように加工しました。



敷石の研磨加工中



また完成が近くなると景観整備も必要になり、私も現場に混ざり阿部宮司様のリクエストにどう応えたら良い配置になるかを考えながら周辺の石材を設置しました。石材の選定や高さの決定などおおよその作業としては了承を頂けましたが、景観の顔となるとは、結果としては阿部宮司様の石材の見立てが上手く、アドバイスを頂きながらの施工になりました。



敷石および縁石の加工・設置



北門側階段・袖石および敷石



解体前の写真



スロープ、向拝縁石・敷石、入口階段、景観工事

今回の工事により更に石工の面白さや大事さを痛感しました。博多の石材店として、また代々石材業を担う者としてこれほど名誉な仕事はありません。また私事ですが、博多祇園山笠の舁き手として参加をしておりますが、本年は七番山笠恵比須流の赤手拭代表を仰せつかり、個人としても「お櫛田さん」への想いがより強い、記念の年となりました。

「國松さんって横町の角に石が積んであった石屋さんやろ？昔、子供たちの遊び場やったもんね」「蓮池に店を構えとったろ？」と今も地元の石屋さんとして覚えて頂いてますが、これからも博多のまちづくりの一助となり、個人としても会社としても日々成長できるように邁進していきたいです。

この度は貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。これからもご指導宜しくお願いします。

國松 祥治 拜

式年遷宮に際し、現在もご奉賛を受付けております。皆様からのご支援を賜われましたら幸いです。  
 お問い合わせ先 櫛田神社 第四十九回式年遷宮奉賛会事務所  
 〒812-0026 福岡市博多区上川端町1番41号 電話(092)291-2951 FAX(092)281-7180  
 受付期間 令和2年から令和7年10月



福岡博多の新しい歴史的財産の工事に携わりました。  
高場乱先生銅像台座製作協力・玄洋社墓地整備

生涯男装を通し幕末の博多の女傑と言われた、高場乱先生たかばおさんの銅像台座の製作協力と銅像が建立された玄洋社墓地の整備をさせていただきました。

高場乱は福岡藩医の家系に生まれ、日本の将来を背負う若者の育成に心血を注ぎ、自由民権運動の先駆けとなった政治結社玄洋社の設立にも大きな影響を及ぼした「幕末の博多の女傑」と呼ばれています。

その功績を称え高場乱生誕190年記念事業として人參畑塾の会実行委員会様の依頼により、博多人形師の中村信喬氏が製作された銅像の台座製作を協力いたしました。

銅像の高さは4.5m、台座の幅は3.24m、奥行は1.71m、高さは1.0mで石種は佐賀県産の天山御影石を使用しています。銅像が建てられた場所は高場乱が眠る、福岡市博多区千代の崇福寺にある「玄洋社墓地」です。

その高場乱生誕190年記念事業の銅像建立を前に玄洋社墓地整備工事を昨年施工させていただきました。

玄洋社墓地整備工事は高場乱の子孫であり人參畑塾の会顧問の、安部泰宏様（株式会社アキラホールディングスCEO）のご依頼によって大規模な改築工事となりました。

安部様は高場乱が眠るこの場所に銅像を建てたいと思い、関係各所に働きかけたところ皆さんから同意を得ました。しかし玄洋社墓地内は草が生い茂る状況だったので、この機会に私財を投じて墓所の整備工事を思い立たれました。

安部様は歴史的財産を次世代に継承していくのが私たち世代の役割であり、国や世界をより良く変えようと努力した先人が地元でいたことを知ることで、若者が「自分たちは未来のために何ができるのか？」という思いを抱ききっかけになってほしいという熱い思いによる整備工事となりました。

昨年8月20日に玄洋社墓地整備工事が竣工し、今年3月31日に生誕190年記念の銅像建立除幕式を終えて、弊社も福岡博多の新しい歴史的財産の工事に携わることができたことを誇りに思います。

整備された「玄洋社墓地」と、そこに建つ「高場乱先生之像」を見学して、激動の時代に生き、日本の近代化に大きな足跡を残した先人に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



高場乱先生之像



玄洋社墓地整備 着工前



玄洋社墓地整備 竣工

高場乱像のメイキング映像と  
除幕式の様子を動画で配信中



お客様の声

國松石材とご縁をいただいたお客様の温かいメッセージをご紹介します

「福商会法人設立70周年記念碑」2022年10月1日建立

依頼者：一般社団法人福翔会 理事長 平田 哲子様

母校福翔高校の同窓会「福商会」70周年記念事業として、日本を代表する実業家で出光興産の創業者「出光佐三」翁が福翔高校（旧・福岡市商業高校）出身であることから、功績を称えるとともに理念や想いを記念碑として残そうということになりました。

ネットで探してみたものの遠方の会社では相談や設置やアフターケアなどが不安で、顔が見える近い所で探していた時、知人に國松石材を紹介されて相談してみることにしました。

「記念碑とはこんなものだろう」というイメージがあったのですが、お店に行ってみると色々な石の展示があっても驚きました。「こんな石があるんだ！デザインも色々できるんだ！」と新発見。それからはこちらの想いを伝えながら、お話をさせていただくうちにどんどんイメージが膨らんでいきました。ご提案もたくさんしていただけて、本体は出光「日章丸」タンカーをモチーフとし、母校三校を一体としてイメージし「熱・意気・力」の校訓を刻むことに。さらに台座下の割肌加工で大海原を表現してもらいました。生徒の皆さんが校訓を胸に未来へはばたき前に進まれることを願った船出のデザインで制作をお願いすることになりました。

担当の古賀さんには無理もお願いしたのですが、どんなリクエストをした時にも「出来ません」ではなく、きちんと向き合ってくださいましてカチにさせていただいたのは本当に嬉しかったです。

今回の記念碑建立を新聞でご覧になった出光美術館の副館長や、出光興産の方が見学に見えて「翁の偉業を母校生徒に伝えてもらいたい」とのお言葉をいただくなど、新たなご縁にもつながったことに感動しました。

「想いを伝えたい」という一心で取り組んだ記念碑づくり。完成した記念碑は、同窓会の皆さんもとても喜んでくださっていました。



福商会石碑



担当者と理事長 平田様

担当者から一言

この度、福商会設立70周年記念碑建立に携わらせていただきありがとうございました。  
平田理事長様、福商会の皆様には大変お世話になりました。  
当初、お話を伺ったあとすぐに「海賊とよばれた男」を拝読しまして改めて出光佐三翁の生き方や考え方がわかりやすく入ってきました。  
デザインもすごく気に入ってもらえたようでしっかり形に残す事ができてよかったです。  
私自身、今回経験させていただきとても勉強になりました。  
今後はこの経験を生かしてモニュメント工事等にご要望に沿えるように見聞を深めて頑張ります。



お客様係 古賀 亮

「お墓参り」の感動的なエピソード

第13回 小説家・僧侶 瀬戸内 寂聴さん

## お墓参りっていいね!

## 「寂庵の墓」

エッセイ「寂聴 残された日々」(朝日新聞出版)より

毎年、これが最後かなと胸のうちに思いながらお雛さまを飾っている。雛祭りが終わるとさっさとしまわないと、娘がいたらその婚期が遅れるとの言いならわしがある。今、寂庵にはまさに適齢期の娘が二人勤めてくれているので、惜しがりながらも三月五日すぎには雛壇を片づけてしまう。

今年の冬は格別寒かったが、まんさくが冷たい空気の中にいち早く咲いて、寒々した庭に灯をともしたように日に日に明るく輝きを増し、まるで寂庵のイルミネーションのようだと思えば、雛祭りの頃には、白梅、紅梅、黒梅といっせいに花を開き、風までほんのり暖かくなっている。風には沈丁花の匂いもする。

五百坪のがらんどうの造成地に寂庵を建てた時から、もう四十三年もの歳月が過ぎている。庵が建った時は木一本なくて、庵開きの日には、ドッグレースが出来そうな庭だと、お客たちと笑ったのを思い出す。お祝いをくれるなら、好きな木を一本下さいと願ったら、みなさんが一本ずつ、手に提げてきて下さり、ご自分で好きな場所に植えていってくれた。その木々がみんな今や大木になり、森のようになっている。まわりは広々と畠に囲まれ、庵の座敷から遠い東山連峰が望めたのに、今では庵のまわりに家がびっしり建ってしまって、嵯峨野の趣がすっかり変わってしまった。

それでも寂庵の門の中は別世界のように静謐が保たれている。木々を提げて植えていって下さった方々は、大かたあの世に旅立ってしまわれたが、植えて下さった木々は、年と共に育ち、季節ごとにそれぞれの花を咲かせて、持参者のなつかしい顔を思い出させてくれる。

この間、細川護熙さんの五輪塔を写真で見たら、あんまり好ましいので買ってしまった。久しぶりでご夫婦で訪ねてくれた横尾忠則さんに見てもらったら、たちまちその置き場所を寂庵の庭に選び、それを中心に据えた墓所の設計図をすらすらと描いてくれた。

「ここからここまでは、新しい苔か、白い小石で埋めて、この木の根はそのまま這わしておくのよ」

横尾さんは、すっかり五輪塔が気に入って、私の墓の設計をしてくれる。

私の墓は、岩手の天台寺に二百造った天下一安い墓のうちの一つを用意しているが、まだ何も石に彫りこんでいない。

ましてや、死んだら寂庵をどうするか何の案もないのに、墓所の形にしたら、何やら心が落ち着いてきた。

五輪塔の横に置く墓石を探す楽しみが増えたようだ。その石の表には、私の俳句を彫ることにしよう。

今月、全く思いがけなく、九十五歳で自費出版したはじめての句集『ひとり』で、星野立子賞をいただくことになったので、お墓の石に句をひとつ刻んでもいいかな、いや厚かましいかな、やめるべきかな、なんだか愉しく迷っている。

横尾さんも細川さんも、とても若々しく見えるけれど、もう八十歳を迎えている。芸術家は死ぬまで心は青春だ。しかも二人は天才だ。天才は頭の構造がちょっとおかしい。

そこが私には何より魅力に感じられる。人生の財産で最大のものは、よき友である。



寂聴 残された日々  
著者 瀬戸内 寂聴  
2020年11月30日第一刷発行

## お墓のなるほど講座

前回は、お墓の役割について皆さんに馴染みのある「お盆」のお話を少しして終わっていましたが、今回はお盆について詳しくお伝えしていきたいと思います。

旧暦七月十五日のお盆はご先祖様がわが家に帰ってくる日で、最大の国民行事です。日本で最初にお盆の法要が営まれたのは推古天皇の607年と伝えられ、奈良時代以降は毎年7月15日に宮中で営まれました。各寺院でも斉明天皇の657年、飛鳥寺でお盆の法要が営まれましたが、平安時代頃までのお盆は朝廷や貴族が中心でまだ庶民の間には広まっていなかった。鎌倉時代になるとお盆はしだいに庶民の間にも普及していきます。



お盆は仏教の「ぶっせつうらぼんきょう 仏説盂蘭盆経」というお経に基づいていますが、インド仏教と中国の儒教や道教も混ざって、今日の「先祖が家に帰る」行事になりました。お盆のことを正しくは「うらぼんえ 盂蘭盆会」といいます。サンスクリット語のウランバナの音写で「とうけん 倒懸」と意識されます。

倒懸というのは、逆さ吊りにされるような耐え難い苦しみのことで、地獄や餓鬼道(食べ物がなく飢えに苦しむ世界)などに落ちてこの苦しみを受けている死者を救うために営む法会なのです。「仏説盂蘭盆経」には、次のようなお盆の起源に関する話が述べられています。

昔、釈尊の十大弟子のひとりに目連という人がいました。彼は若くして母親を失いましたが、その母親が餓鬼道に落ちて苦しんでいることを知りました。母親の姿を見て大いに嘆き悲しんだ目連は釈尊に相談しました。

すると釈尊は、ひとたび餓鬼道に落ちたものをにわかには救うのは難しいが、あんご 安居(雨季の時期、僧院にこもって修行をつむこと)明けに僧侶たちに飲食を供養すると、最高の功德がある。だから、この日に修行僧たちにご馳走をすればその功德で彼の母親も救われるだろうと説きました。

このように釈尊に教えられた目連は、安居明けの日を待って、修行僧たちに食事を供養したところ母親は餓鬼道から救われたといえます。この古事にちなんで盂蘭盆会が行われるようになったのです。



先祖の話  
新訂版 発行所:株式会社石文社